

今週（3月12日から3月16日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が360兆円台半ばでの推移となった。積み最終週となったことで多少なりとも強まる展開が予想されたものの、引続き調達ニーズは弱く、弱含む展開となった。無担保コールO/Nの取引レートは、12日～15日は▲0.08%台の出合いが散見され、加重平均レートは▲0.06%台半ばから後半に徐々に低下する展開となった。16日からは新積み期となり、▲0.075～▲0.060%での出合いが中心となるなど、多少上昇したものの、全体的に落ち着いた取引であった。ターム物は、月内ショートターム物で▲0.040～▲0.030%の散発的な出合いがあり、月内の資金運用を固める動きが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、15日に8,000億円オファーされ、結果は1,430億円（期落ち分2,320億円）で札割れとなった。

●レポ市場

3月は国債の新規発行が20日に集中する一方で、国債買入オペは定期的に通知されているため、今週も玉不足の傾向が続いた。週前半のT/N、S/NのGCは、前週までの流れを引き継ぎ、▲0.14%近辺の出合いとなるなど、買い急ぐ動きが目立った。その後、積み期間の変わる3/14のS/Nからは、ややレートを戻し、▲0.12～▲0.10%程度の出合いが中心となったが、売りは続かなかった。GCターム物は、週初は3月末を越える1Mで▲0.20%近辺、3Mで▲0.18%近辺の気配だったが、週後半には期末の玉手当てに一服感が見られ、買いが入りにくい状況となった。

SC取引は甘めの銘柄で概ね▲0.15～▲0.12%程度の取引が中心だった。個別銘柄では、10年348、349、5年130、134、などが強めのレートで取引された。

●短国市場

今週の短国市場は、年度末越えの玉確保の動きも一服となり、軟調な結果となった12日の短国買入オペを境にレートが上昇する展開となった。

12日に実施された短国買入オペは、7,500億円でオファーされた。業者の在庫が膨らんでいるのか応札額が3兆円台と多く、平均落札利回較差+0.012%、按分落札利回較差+0.007%と弱めの結果となった。

15日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.15%から▲0.162%に買い進まれる展開となったものの、平均落札利回▲0.1539%、按分落札利回▲0.1423%と慎重姿勢の強まりを反映した結果となった。一方で、セカンダリーでは、▲0.156～▲0.148%の出合いと堅調に推移した。

16日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.146～▲0.145%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1427%、按分落札利回▲0.1408%と概ね事前予想通りの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、電気機器、機械、鉄鋼、ゴム等の複数業態で大型の案件が実施され、週間発行総額は9,200億円程度まで膨らんだものの、年度末要因で償還が1兆200億円程度あり、償還超のマーケットとなった。発行レートについては、買入オペを見込んだ業者の玉確保ニーズが強く、期越物中心にレートの低下余地を探る展開が続いた。一方、今週の発行総額のうち約半分が期内物であったが、期内物においてもレート上昇圧力は観測されず、低い水準で推移した。

13日にはCP等買入オペが5,000億円オファーされた。結果は平均落札レート▲0.032%、按分落札レート▲0.043%と、前回比（平均▲0.007%、按分▲0.013%）で平均、按分ともに低下した。前回6日のオペは応札額が7,865億円と比較的少なかったことから、今回も応札額が少なく足切レートが大きく流れる展開も予想されていたが、応札額は前回比約1.4倍の1兆1,292億円まで膨らみ、足切レートの低下は限定的なものにとどまった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/12 (月)	21,824.03	0.045	106.62	△ 0.065	△ 0.119	3,640,900
3/13 (火)	21,968.10	0.045	106.36	△ 0.068	△ 0.116	3,643,200
3/14 (水)	21,777.29	0.045	106.45	△ 0.068	△ 0.115	3,655,300
3/15 (木)	21,803.95	0.040	106.01	△ 0.069	△ 0.102	3,639,900
3/16 (金)	21,676.51	0.030	105.90	△ 0.063	△ 0.138	3,662,400

来週（3月19日から3月23日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
3/19 (月)	決定会合における主な意見(3月8,9日分 8:50) 2月の貿易統計(財務省 8:50)		
3/20 (火)		流動性供給 5,500億円 3/23発行	米FOMC(1日目) 2月の英消費者物価指数
3/21 (水)	春分の日		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 2月の米中古住宅販売
3/22 (木)		TB3M 44,000億円 3/26発行	英中銀MPC結果発表
3/23 (金)	2月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)		2月の米新築一戸建て販売件数 2月の米耐久財新規受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/19 (月)	▲ 100	▲ 6,200	▲ 6,300	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完 貸出増加支援	▲ 2,300 ▲ 300 ▲ 100 400 800 ▲ 20,300	1,400 400	▲ 20,400	▲ 26,700	確定申告 TB3M発行▲44000償還41500
3/20 (火)	▲ 1,000	54,000	53,000	国債買入		3,100	3,100	56,100	国債利払い・大量償還 TB1Y発行▲22000償還19300 5Y発行▲22000償還42400 10Y発行▲23000償還55800 20Y発行▲10000償還8100 30Y発行▲8000 変動15Y償還3800 エネルギー対策借入▲3500期日3000
3/21 (水)	春分の日								
3/22 (木)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
3/23 (金)	▲ 2,000	3,000	1,000				0	1,000	特別交付税 流動性供給▲5500
週間合計	▲ 4,100	51,800	47,700	—	▲ 22,200	4,900	▲ 17,300	30,400	

3/19は日銀予想、3/20以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20日に国債の大量償還・利払いがあり、大幅な余剰日となることが見込まれる。無担保コールO/Nは新しい積み期間に入ったことで、緩やかに上昇することが見込まれる。

レボ市場は、20日の大量発行を経てどの程度玉不足が解消するか、投資家を中心に大口の資金調達ニーズが戻るか否かが注目される。

短国市場は、22日に3M物の入札が実施予定となっており、期末を控えてマーケット動向が注目される。

CP市場は、期末を目前に控え、期越物の発行の増加に注目が集まる。また直近のオペの結果を受け、今期最終の27日のオペへの期待は高まるものと見られる。オペを見据えた業者の買いがどの程度強まるかが注目される。

主要なイベントとしては、国内では23日に2月の全国CPI、海外では20日に2月の英国CPI、20～21日にFOMC、22日にMPC結果発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまふようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。